

今年はじめて「スミレ」の花に出会いました！

場所は、二上山の山麓部、日当たり良好な林縁で、小さな群落を作っていました。

スミレの種類は多く、日本だけでも100種類以上（変種や亜種などを含めて）あると言われており、春の野山を飾る多様な花は、古くから多くの人々に愛されてきたようです。

万葉時代の山部赤人にはじまり、清少納言や松尾芭蕉、そして夏目漱石も「董程な 小さき人に 生まれたし」という句を詠んでいますね。

今回、咲いていたのは「タチツボスミレ」で、生育環境が広く、「スミレ」とともに日本を代表する種の一つです。

「タチツボスミレ」は漢字にすると「立坪董」、**「立」**は花の盛りを過ぎると茎がしだいに立ち上がってくる様子を、**「坪」**は道ばたや庭の意味で、身近なところで見られる様子を表しているようです。

そして、このスミレの咲く近くでは、黄金色の毛で被われた丸みのある体に、まるで釣り竿のような細長い口をもつ「アブ」が数匹、飛んでいました。

この種の名は「ピロウドツリアブ」、春の訪れを知らせるとともに、春の終わりにはその姿を消してしまう昆虫なのです。

巧みな「ホバリング」を入れながら、地表近くを飛び回り、細長い口をうまく使って、いろいろな花で吸蜜します。

『一匹の虻（あぶ）が宙からつりさげられたように浮かんでいた。』と、北杜夫氏は「どくとるマンボウ昆虫記」でこの種の様子を表現しておられます。

写真 ~ : タチツボスミレ

花弁の長さ：10mm 程度
花期：3～5月

写真 ・ : ピロウドツリアブ

体長：10mm 程度
成虫出現時期：3～5月









